

經濟論叢

第 155 卷 第 1 号

山田浩之教授記念號

| | | |
|-----------------------------|---------|-----|
| 献 辞 | 浅 沼 萬 里 | |
| 時系列分析の新展開 | 森 棟 公 夫 | 1 |
| 交通混雑制御への待ち行列モデルによる アプローチ | 小 林 清 晃 | 22 |
| 明治期日本海運と長江 | 片 山 邦 雄 | 36 |
| 年功賃金とヒックスの平均期間 | 逸 見 良 隆 | 53 |
| 景気変動と雇用調整：日本に関する研究展望 | 村 松 久良光 | 75 |
| 市場経済移行の基本問題 | 高 阪 章 | 98 |
| 線形費用三者立地交渉問題 | 今 井 晴 雄 | 117 |
| 高齢化、人口移動、地方財政 | 西 村 周 三 | 132 |

山田浩之 教授 略歴・著作目録

平成 7 年 1 月

京 都 大 學 經 濟 學 會

献 辞

白田善之先生は、1995年3月14日に63歳の誕生日をお迎えになり、同年3月31日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、1953年3月に京都大学経済学部を卒業され、京都大学大学院経済学研究科博士課程での学業を終えた後、京都大学経済学部助手、講師、助教授を経て、1977年から交通論講座担任の教授として教育・研究活動に尽力してこられました。

先生は、多様な陸上交通手段およびその交通路の選択や建設の問題を、地域とりわけ大都市圏の経済活動およびアメニティとの関連で分析する方向に交通経済学を発展させる仕事に心血を注がれ、これとの関連で、日本における都市経済学の開拓者の役割を担われることとなりました。主著「都市の経済分析」により1981年に日本交通学会賞を受賞されたばかりでなく、輸送投入の産業連関分析、土地・住宅市場に関する理論的・実証的研究、標準大都市雇用圏を用いた日本の都市化の分析などは、国際的にも先駆的な業績として高く評価され、近年には文化経済学の発展にも取り組んでおられます。こうした先生の御研究は、8冊の書物と120編を越える論文となって結実していますが、理論経済学や計量経済学の分野で活躍する人びとを含め、多くのすぐれた研究者を育成してこられたことも、先生の大きな功績であります。

また、1978年1月から84年3月までの間に2度にわたり京都大学評議員、84年4月から86年1月まで京都大学経済学部長の重責を担われ、経済学部を大学紛争期から脱却させ再生の軌道に乗せる上で、また大学院経済学研究科を経済研究所との協力関係を基礎に置くものに再組織し、その新たな発展の礎を築く上で、決定的に重要な役割を果たされました。

さらに、日本交通学会、理論・計量経済学会、日本土地法学会、応用地域学会、文化経済学会、日本計画行政学会など多くの学会で要職に就かれたほか、種々の審議会等での活動を通じて、実際界と学界との間の知的交流を促進されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたる御功勞に対する敬意と感謝の念をこめて、「経済論叢」の本号を記念号として編集いたしました。先生の御指導を受けられた方々から寄せられた論文を編んで、本号を先生にお贈りできますことは、私どものこの上ない慶びであります。

先生が今後ともますます御健康で、学界のため、また広く社会のため、御活躍下さいますことを、心からお祈りいたします。

1994年12月5日

京都大学経済学部長 浅 沼 萬 里